



野地



五輪塔は小さくてかわいらしい

窪川から国道381号を走り、旧大正町に入る弘瀬トンネルの直前の「秋丸」から左折、すぐに四万十川を渡る。そこからが「野地」である。橋を渡った右手に旧道が残っている。

野地地区は家地川堰堤直前の四万十川左岸に沿って、47世帯121人(2014・9月現在)が暮らしている広々とした集落である。佐賀方面に抜ける道路の西側に農地が広がり、東側の比較的低い山に添って住宅が並んでいる。

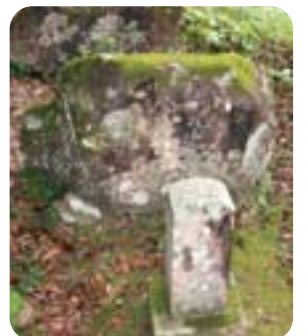
農地には稲・生姜・ニラなどが元気よく育っているが、元々は水に苦勞した地域で、大小合わせて4カ所のため池がある。そのため池も昭和中期までは干上がったしまうこともあったという。しかし、地区出身で戦中戦後に九州を地盤に事業を興した、西政清という実業家によって、四万十川から水をくみ上げるポンプが整備され、現在はそれによって水に不自由することがなくなったということである。西政清氏はこの他にも水路の整備や集会所建設など、野地地区のインフラ整備に多大な貢献をしている。地区のために尽力してく

昭和の実業家、江戸期の庄屋、さらにその昔の地頭…。そんな先輩・先人たちによる功績は、細々とではあるが言い伝えられ、現在でも彼岸などには地区住民がお参りをするという。

それにしても、野地地区は、約200年周期で「地区の大貢献者」が現れる不思議なところである。

れたことへの感謝を込め、地区住民は集会所前に碑を建てた。

さて、その碑がある集会所の裏に回ると、2体の墓石に挟まれるかたちで、横幅1mはある自然石が前後に並んでいる。これも墓石で、江戸後期(1つは元文年間、もう1つは寛保年間)の庄屋の名が刻まれている。野地地区の発展に大きく貢献した人物であったという。この自然石は、あるため池を掘削したときに出たものだといわれている。もしかしたら、そのため池を掘るにあたってかなり大きな功績があったのかもしれない。この小さな墓地から一段下がったところに、五輪塔がひっそりと祀られている。この五輪塔はこの地を切り開いた戦国期の地頭職のものといわれている。



デザインも美しい自然石の墓石

町のうごき	(8月31日)				出生 死亡 転入 転出				適正值(mg/l) 9月10日	
	人口	前月比	男	女	男	女	計	計	リン酸	測定範囲以下
	8,707	-15	3	16	11	13			≤ 5.0	測定範囲以下
	9,803	-17	2	14	17	22			≤ 0.5	測定範囲以下
	18,510	-32	5	30	28	35			≤ 5.0	0.242
	8,700	-3	(8月中の届出)						≤ 1.0	1.200
									≤ 10.0	測定範囲以上

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部